

(第3種郵便物認可)

2014年(平成26年)1月9日(木曜日)

言葉 真実 実行 順序



大声で司会者(左端)の従業員にアピールするビ
イサイドプランニングの従業員ら(草津市で)

朝礼商人「売り上げよし」

『三方よし』の近江商人の地から『朝礼』で元気に——。「売り手よし」「買手よし」「世間よし」の商業倫理で有名な近江商人を生んだ県内で、朝礼を重視して業績を上げる企業が増えている。倒産寸前の危機を大喜利風の朝礼で脱したり、中堅企業のブランドイメージが高まったりと活用例や効果は様々。県内企業による朝礼コンテストが開かれるなど、広がりを見せつつある。(生田ちひろ)

県内で増加中

近江商人 江戸時代、近江に本拠地を構えて諸国を巡り、特産品を販売した。八幡(近江八幡市)、日野(日野町)、五個荘(東近江市)と高島(高島市)が有名。複式簿記や、入念なマーケティングによる出店、枝店の展開という多店舗経営の造語で、松下幸之助ら日本を代表する企業家も好んで引用した。特に地域や社会への還元を示す「世間よし」は、現代はCSR(企業の社会的責任)の先駆けともされる。

「三方よし」の精神は、近江商人の経営理念を表現した後世の語彙で、松下幸之助ら日本を代表する企業家も好んで引用した。特に地域や社会への還元を示す「世間よし」は、現代はCSR(企業の社会的責任)の先駆けともされる。

五個荘(東近江市)と高島(高島市)が有名。複式簿記や、入念なマーケティングによる出店、枝店の展開という多店舗経営の始業前のオフィス。金従業員29人が身を乗り出して手を挙げる。見学などを通じて「朝礼が一日を立った男性社員を指名すると「子どもが飼い犬にまみ毛を描いた」と。ドッと笑いが起きた後、拍手でたたえ合い、ハイタッチ。それまでの業務に向かった。

入社7年目の中川千奈美さん(35)は「やる気を高め、その日の自分を作る最高の場。一言スピーチをしないと頭の回転が鈍くなる気分」と力を込める。『元気発信朝礼』と商標登録までした大喜利風の朝礼を導入した

のは2009年4月。前年のリーマンショックのあとで、主力の求人広告が半減、社内に悲壮感が漂っていた。倒産も現実味を帯びたが、「こんな時こそ笑顔を」と、永田咲雄社長(52)が他社の社員の表情が明るくなり、連帯感も深まった。元気で営業に回ると決める」と確信。現在の形になると、社員は「こんな時にもうかつっている」と勧導されるほど好感された。業界に低迷感が漂つた中、翌10年度が万円まで回復。永田社長は「最後の決めては人柄。うちは朝礼で培つている」と話す。

大喜利／あいさつの練習／体操／社歌合唱：

教材ソフトプランニングの従業員ら(草津市で)

「思わず笑つた」と。「ハイ!」「ハイ!」「ハイ!」。1986年創業の草津市の教材ソフトプランニングの始業前のオフィス。金従業員29人が身を乗り出して手を挙げる。見学などを通じて「朝礼が一日を立った男性社員を指名すると「子どもが飼い犬にまみ毛を描いた」と。ドッと笑いが起きた後、拍手でたたえ合い、ハイタッチ。それまでの業務に向かった。

入社7年目の中川千奈美さん(35)は「やる気を高め、その日の自分を作る最高の場。一言スピーチをしないと頭の回転が鈍くなる気分」と力を込める。『元気発信朝礼』と商標登録までした大喜利風の朝礼を導入した

連帯感やブランドイメージ↑



朝礼であいさつの練習をする十成亭・伽羅の従業員ら(彦根市で)

◆ユニーク朝礼を実践する県内の企業

会社名	業種	朝礼内容	効果
タオ(草津市)	教材ソフト開発	パソコン上のキャラクターと共に体操やあいさつ	2009年の導入後の3年間、毎年の売上高が前年比10~25%アップ
ジェイジエイフ(近江八幡市)	LPGガス、住宅リフォームほか	社長が作詞作曲した朝礼歌を全従業員で歌って踊る	リピーターやロコモ客が増え、販促費が不要に
滋賀建機グループ(愛知町)	建設機器リース	朝礼インストラクターに指名された社員が体操などを指南	導入した12年度6ヶ月期決算で売上高1割増
クオリティライフ(草津市)	ファインジャパンプランナー	社長と従業員で毎朝あいさつ。週1回の発表会も	導入した08年度の売り上げは一気に倍増
ダイジプロダクト(米原市)	物流	社訓の読み上げと教養書の読書	発送時の破損などトラブルが大幅に減少

教材ソフト開発会社「朝礼バトル」

緒に体操やあいさつをしたり、一緒に社歌を歌つたり踊つたり……。従業員を集め、全員でお絃を唱えたり、ユニーカ朝礼で業績を伸ばした。教材開発会社や不動産会社などの実践例に、会場は笑いと拍手に包まれ、其感の輪が広がった。伊藤忠商事や丸紅を創業した初

彦根市出身で、先祖が近江商人のジャーナリスト・田原総一朗さん(79)の話。「パソコンでバラバラに仕事をする時代だが、連帯感を重んじた近江商人の歴史と伝統のある地だからこそ、手応えを感じている。

そんな県内では3年前から、ユニークな朝礼を披露し合う「朝礼バトル」が開かれている。県倫理法月会(約500社)が主催し、5月のオリジナルキャラクターと一緒に

彦根出身

田原総一朗さん

そ、顔をそろえて声を出す朝礼が見直されているのだろう。経営の要である従業員のやる気は、連帯感が強くなると高まる。人間関係をつくっていく基本にもかなっており、新たな可能性を感じる」

なぜ県内で朝礼が広がっているのか。
近江商人博物館(東近江市)の林純吾館長は「勤勉で知られた近江商人のように、一日の始まりを朝礼は様々な業種に広がっています。朝の活動がいいと分かって入。あいさつの練習や教養書を読み上げる朝活の応用で、細かい指示がなくても接客などに統感度を自然に意識できるようになります」と丁寧さが備わった。料亭「伽羅」では開店前、仲居や料理長などが一堂に客間に集まり、女将の野田(のみさん)(62)と高まるサービスにつながった」と手応えを感じている。

伊藤忠商事や丸紅を創業した初企業の活性化に朝礼を奨励している社会教育団体「倫理研究所」(東京都)も県内の動きには注目する。朝の活動がいいと分かって入。多くの企業が一日の足を踏むが、「滋賀ではないと分かれればすぐに導入する企業が多く、仕事の大切にする精神が現代に通用するのではないか」と話す。

彦根市出身で、先祖が近江商人のジャーナリスト・田原総一朗さん(79)の話。「パソコンでバラバラに仕事をする時代だが、連帯感を重んじた近江商人の歴史と伝統のある地だからこそ、手応えを感じている。

そんな県内では3年前から、ユニークな朝礼を披露し合う「朝礼バトル」が開かれている。県倫理法月会(約500社)が主催し、5月のオリジナルキャラクターと一緒に